



沼津市在住の歴史時代小説家 **秋山 香乃**さん

応援してます！

＊プロフィール＊

2002年『歳三 往きてまた』でデビュー。

2018年、河井継之助を描いた『龍が哭く』で第6回野村胡堂文学賞受賞。

2019年『氏真、寂たり』を、夫の鈴木英治著『義元、遼たり』と同時刊行。
また歴史小説界に風穴をあけんとする作家の団体“歴史小説イノベーション「操觚の会(そうこのかい)」”の創立メンバー。会長は鈴木英治。

2020年、操觚の会による『戦国の城 アンソロジーしずおか』を刊行。

静岡新聞にて『頼朝 陰の如く、雷霆の如し』を連載中(2022年3月～)。



『頼朝 陰の如く、雷霆の如し』

平治の乱で平家に敗北し、一人捕らわれた河内源氏の棟梁・源義朝の三男、三郎頼朝は、「つかぬことを訊くが、佐殿はこの後、生きたいか、死にたいか、どちらであろう」と問われ、父も兄たちもみな死んだことを知り、呆然となるも「むろん、生きようござる」と答える。

平清盛の前に引き出され「なにゆえ、義朝の嫡子が、生きて吾の前に出てきおったのだ」の第一声に、「自害するという考えが、頭からすっぽりと抜けておりました」と答える頼朝の心の内には、死ねばそこで全てが終わる。源氏を終わらせぬためには、他の誰でもない、頼朝こそが生きねばならないの想いが。

清盛の裁断は、頼朝、伊豆へ配流。十四歳の少年だった。～

長い流人生活を送っていた頼朝は、監視役・北条時政の娘、朝日姫(北条政子)との出会いの中で**武士が天下を握る**、のだという自分自身の望みを知る。父時政に反対されても、嵐の中を一人、頼朝に会いにきた朝日姫に「私は時がくれば、起つ」「ゆえに長く生きられぬかもしれぬ。あるいは、戦漬けの人生になるやもしれぬ。何れにしても、平穏とは程遠い道となろう。不幸にするかもしれぬのに、求める気持ちを抑えられぬ。そなたと共に歩みたい」と告げる頼朝。

✂ これから、どうなる?! 鎌倉ストーリー



＊作品紹介＊

『鎌倉燃ゆ』(2021年PHP研究所) 実力派作家7人によるアンソロジー。



「蝸牛(かたつぶり)」(秋山香乃)

夫になるはずだった木曾義仲の嫡男・義高を、父親である源頼朝に殺された大姫。鎌倉に送られてきた源義経の愛妾、静御前。二人の心はいつしか通じ合うように。そして、鶴岡八幡宮で静御前は頼朝を前に、歌を唄い、舞う。

しづやしづ しづのをだまき くり返し 昔を今に なすよしもがな

北条義時、梶原景時、畠山重忠ら坂東武者たちの生き様が描かれている中で、秋山さんの「蝸牛」は大姫と静御前の想いを描く。

図書館のイベント「子どもの本を知る講座」開催しました！

7月10日(日)「子どもの本を知る講座」を開催しました。

また、4階展示スペースでは、7月7日から8月3日までの期間 展示「えほんのせかい こどものせかい」を開催しました。昔読んだ本や今の子どもたちが関心を持つ本の世界に触れる機会となり、懐かしい本との再会や新しい絵本との出会いがあり、多くの方の笑顔が見られました。



今むかし豆ちしき～文学作品に登場する場所や建造物について～

『人間の運命：完全版3（友情）』（芹沢光治良著）に登場する鮎壺の滝を紹介します。

主人公の森次郎は一高（第一高等学校）の授業料を高場夫人に援助してもらっています。夫人は、狩野川の支流で滝の近くの別荘に住んでいました。「愛鷹山の裾と富士山がのぞいていた」という描写から、この滝が鮎壺の滝であることがわかります。



次郎は不思議でならなかった。故郷の思い出多い場所。誰でも、いつでも、この滝や杉林や川原やその上の平地や眺望を、わがもののようにして、たのしめた場所。それが、いつの間にか、高場氏の屋敷の一部になって、すべての人から奪われてしまったとは、どういうわけであろうか。

（略）次郎は再び二里ばかりの道のりを我入道へ歩いて行ったが、気が重くて、喜べなかった。高場夫人が家にあげなかったことと、滝まで買ってしまうような人であったことが、からみあって、心を苦しめたからだ。

（『人間の運命：完全版3（友情）』勉誠出版/2013/P196-197/より）

鮎壺の滝（あゆつぼのたき）

／藍壺の滝（あいつぼのたき）

沼津市と長泉町の境界にある黄瀬川の滝。

1996 年静岡県指定天然記念物。2018 年にユネスコ世界ジオパーク「伊豆半島ジオパーク」のジオサイトになりました。



使ってみよう！分類参照検索



本を調べたいけれどキーワードが思い浮かばない、なんとなくネットサーフィン気分で検索してみたい、そんなときに便利なのが、分類参照検索です。

この検索方法では、興味のある分野の分類番号を選ぶことで、その分野の本だけを調べることができます。キーワード検索ではヒットしにくいものも表示されます。

■ 日本十進分類法(NDC)

類目表（第1次区分表）			要目表（第4次区分表）	
0 総記	類目表（第2次区分表）		913.2 古代前期【上代】：奈良時代まで	>
1 哲学	90 文学	要目表（第3次区分表）	913.3 古代後期【中古】：平安時代	
2 歴史	91 日本文学	910 日本文学	913.4 中世：鎌倉・室町時代	
3 社会科学	92 中国文学	911 詩歌	913.5 近世：江戸時代	
4 自然科学	93 英米文学	912 戯曲	913.6 近代小説：明治以降	
5 技術、工学	94 ドイツ文学	913 小説、物語	913.7 講談・落語本、笑話集	
6 産業	95 フランス文学	914 評論、エッセイ、随筆	913.8 童話	
7 芸術、美術	96 スペイン文学	915 日記、書簡、紀行	913.9 翻訳小説	
8 言語	97 イタリア文学	916 記録、手記、ルポルタージュ		
9 文学	98 ロシア文学・ソ連文学	917 箴言、アフォリズム、寸言		
	99 その他の諸言語	918 作品集：全集、選集		
		919 漢詩文、日本文学		

＊本を探すときに便利な番号＊

本の背表紙に貼られている3桁(小数点以下があることもあります)の数字を「分類番号」といいます。分類番号は、日本十進分類法(NDC)によって分類されています。

分類番号と著者の頭文字などの情報を合わせて、請求記号といいます。

＊分類番号＊

010

＊請求記号＊

914.6

サト

沼津市立図書館では、現代小説(913.6)の請求記号は著者の頭文字2文字としています。エッセイ(914.6)は913.6と一緒に著者別に配架していますが、左の請求記号のように、下に著者の頭文字2文字を記載しています。

＊9月5日（月）から12日（月）は特別館内整理期間のため、休館します。＊

御迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。